

名勝哲学堂公園 古建築物の活用方針

令和7年3月 中野区

名勝哲学堂公園保存活用計画において、園内の古建築物の更なる利用の促進と改善、教育や学習等への活用が求められている。

また、古建築物のうち「四聖堂」、「宇宙館」、「絶対城」は近年、都名勝時代に修復済だが、「六賢台」、「無尽蔵」、「髑髏庵」、「鬼神窟」は今後、本格的な修復を予定している。

これらのことを踏まえ、今後の古建築物における展示、見学の在り方、イベント等に関する方向性や、新たな管理棟内の「公開・普及・活用室」との役割分担等について整理した。

古建築物の概要と活用等の現状

	四聖堂	六賢台	無尽蔵	宇宙館	絶対城	髑髏庵・鬼神窟
外観						
本来の用途・役割	四方正面の建築物で、唱念塔が設置され井上円了が影響を受けた四人の哲学者を四聖として崇める場所であり、哲学堂の中心施設。	六角形の赤い塔で。四聖堂と共に崇めの施設であり、2階壁面には円了により集められた神社仏閣の札、石・陶器等を陳列し展示した。	玉石混交（色々なものが入り混じった形）に配列され展示が行われていた。2階は円了が書斎として使用していた。	哲学上の講話や講習会を開催するための講義室。	万卷の書を読み尽くせば絶対の妙境に到達できるという道理から、数万冊に及ぶ書籍を公衆の閲覧に供した読書堂。2階に観念脚と呼ばれる閲覧室を置いた。	（髑髏庵）来園者の帳簿をつけ、茶を提供する受付とてなしの場。 （鬼神窟）天地の神霊に接しながら過ごす接神室と、特別な客をもてなす霊明閣からなる。
活用の現状	装飾物保護のため、建物周囲の回廊から内部を観覧できる。昭和15年より釈迦涅槃像が設置されている。	小鐘は存在せず鐘打の体験はできない。当初の収集物は中野区立歴史民俗資料館に移され、現地はパネル展示がされている。	当初の陳列品の多くは中野区立歴史民俗資料館に移され、現地は過去に実施した特別展の名残が残っている。	皇国殿には、昭和15年より聖徳太子立像が安置されている。講演会等のイベント（20～30名程度）に利用されている。	当初の蔵書は東洋大学に移され、現在は哲学に関する書籍や児童書が置かれている。20名程度のイベントに利用されている。	集会場として一般貸出を行う。受付やもてなしの場としての利用はされていない。
古建築物の※ 定例公開	●（外部回廊から）	●（人数制限有）	●	●	●	—
イベント	（●）	—	—	●	●	●
一般貸出	—	—	—	—	—	●

※ 春季公開（GW）、秋季公開（10～11月初旬の土・日・祝）、月例公開（毎月第1日曜）を実施。
公開期間中の特定時間枠において、個人又は小人数を対象としたガイドを実施。
R5年度の年間参加者数は3,795人（平均140人/日）。年間参加者数の過去推移は、ほぼ横ばい。

古建築物の定例公開 来場者からの声

※R6年度春季公開時にアンケートを実施（回答者118名）

- 満足度 「満足している」59%、「まあ満足している」38%
- 来場回数 「始めて来た」69%、「過去数回来た」21%、「毎年来ている」9%
- 興味を持った展示等 「古建築物」58%、「絶対城の特別展示」30%、「哲学にかかわる言葉」（24%）等（複数回答）
- 自由意見・感想
 - ・料金を払っても良いので、もっと公開してほしい。 ・現代へ続いているという展示もあると良い。
 - ・ガイドの説明が無いと建築物の意味などが分かりにくいと感じた。
 - ・特別展示的なものを増やすと、リピートが増えると思う。 ・もっと宣伝してほしい。
 - ・井上円了氏の哲学堂に対する並々ならぬ思いを肌で感じとれたことは、とても良い体験だった。

「公開・普及・活用室」との役割分担

古建築物の意味や価値は、現地を見ただけでは分かりづらく難解である。古建築物の本来の用途・役割を維持しながら、来園者の本質的な理解を促すため、以下のとおり、新たな管理棟内に設ける「公開・普及・活用室」との役割分担を図る。



課題と取組方針

現状と、名勝哲学堂公園保存活用計画における活用の方向性を踏まえ、以下に取組方針を示す。

① 内部定例公開の拡充と団体利用の受入

課 題	取組方針
古建築物定例公開への来場者数が伸び悩み、日数や時間帯を増やして欲しいとの声がある。 また、団体の受入体制が整わず、教育機関や生涯学習団体等を含め、文化財とふれあえる機会を提供できていない。	定例公開の拡充と、団体受入が可能な運営体制を検討する。公開日数等は建物の保存状態を見ながら段階的に増やし、内容の充実を図るとともに、団体受入にあたっては、各古建築物の特性等を踏まえた人数制限等を設定する。 併せて、学校教育や生涯学習団体等を対象に、公開・普及・活用室も含めた学習プログラムの企画・検討を行う。

② デジタルコンテンツや「公開・普及・活用室」の活用

課 題	取組方針
定例公開日を必要以上に増やすのは運営面や建物保存の観点から課題がある。 また、定例公開日であっても観覧が限られる箇所があるほか、車いす等で立ち入れない場所もある。	内部観覧の代替措置として、屋外解説サインへのQRコード等の設置、端末視聴、新管理棟の活用等を図り、内部の様子等を写真や映像、展示で確認できるようにする。 また、古建築物内の3Dウォークスルーや、将来的には所蔵品等を含めたデジタルアーカイブ化についても検討していく。

③ 収蔵品等の整理と展示の改善

課 題	取組方針
収蔵品や過去の修復時に発生した部材などが、園内数か所と他施設に保管されているほか、今後の修復に際し、収蔵品のさらなる増加も見込まれる。 また、古建築物ごとに、別の古建築物に関する複製品が展示されたり、過去のパネル展示が残るなどの状況があるほか、当時の状況再現・復元に更なる余地があるなど、全体的な統一が図られていない。	収蔵品の状態や今後の発生見込み等を踏まえ、関係機関等とも調整のうえ、適正な保管先や保管・展示方法等を整理する。その際、無尽蔵の活用も想定する。 併せて、今後の修復等を契機に、装飾物等の復元や当時の姿を再現した展示等の可能性について、積極的に検討していく。 なお、展示規模や形態については、建物観覧やイベント活用等との兼ね合いを十分考慮する。

④ 施設の安全性・利便性の確保とユニバーサルデザイン

課 題	取組方針
内部利用にあたり、地震発生時等の安全性が確認できていない施設が残るほか、蟻害や建物・設備等の老朽化が各所に見られる。 また、階段手摺や冷暖房等の設備の設置を望む声があり、集会室の稼働率低迷の一因ともなっている。	耐震診断が未了の建物等については、名勝哲学堂公園再整備基本計画に基づき、診断の実施と安全性の向上を図る。 手摺等の詳細については、各古建築物の修復時等に、建物の保存を勘案して検討する。

古建築物の全体的な活用方針を以下に示す。詳細については、各古建築物の修復時などに検討する。

